

令和2年7月豪雨における排水機場の稼働状況について

～国営最上川下流左岸地区での改修を待つ既設排水機場が「地域の湛水被害の軽減」に寄与～

◎令和2年7月豪雨

昨年に引き続き、気象庁が命名した令和2年7月3日からの「令和2年7月豪雨」は、山形県内においても豪雨に見舞われ、最上川中・上流域で河川が氾濫するなど、甚大な被害が発生しました。

◎国営最上川下流左岸地区の既設機場の稼働

当地区内の排水は、最上川と京田川へ分散排水されますが、27日から30日にかけて計139mmの降雨（事業計画は3日連続221mm（1/10確率相当））があり、改修予定の既設排水機場を全台フル稼働させ、内外水位が下がり落ち着くまで約302万 m^3 （最上川へ216万 m^3 、京田川へ86万 m^3 ）の排水を行いました。

※302万 m^3 は200ℓドラム缶1,510万本分に相当



国営最上川下流左岸地区の排水系統

○豪雨時の状況



7月28日 17:00 時点
（排水路上流より毒蛇排水機場を望む）



7月29日 11:40 時点
（毒蛇排水機場地点より最上川を望む）

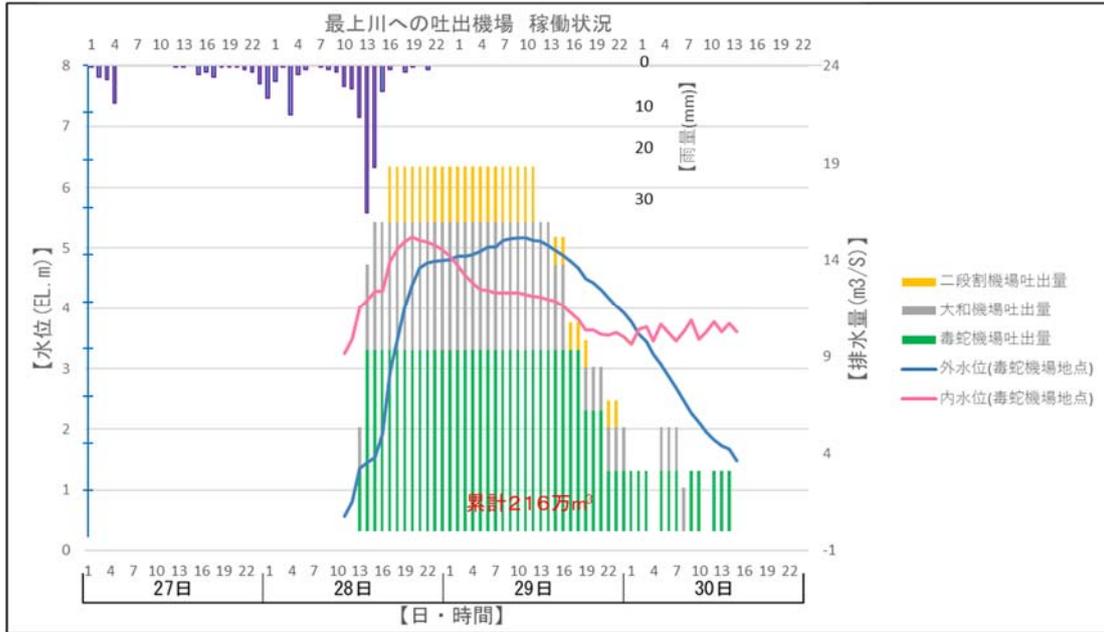


7月29日 9:30 時点
（排水路上流より中央排水機場を望む）

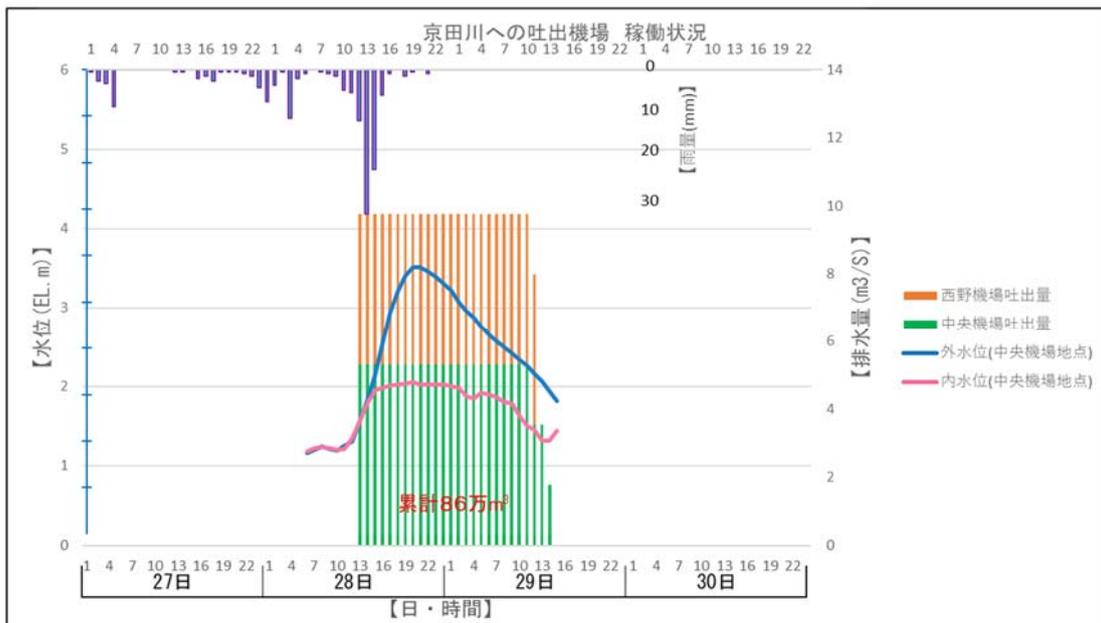


7月28日 15:40 時点
（新中央排水機場地点より京田川を望む）

○既設排水機場の累計稼働グラフ（累計排水量 = 各機場ポンプ吐出量/1台 × 稼働台数 × 稼働時間）



最上川へ吐出する機場の稼働状況



京田川へ吐出する機場の稼働状況

◎国営最上川下流左岸農業水利事業の実施

国営最上川下流左岸農業水利事業は、排水機場及び排水路の改修等を行い、併せて、関連事業において排水施設を整備することで、地域一体となった排水機能の強化による湛水被害の軽減などを図り、農業生産性の維持向上、農業経営の安定に資することを目的としています。

現在、毒蛇排水機場と中央排水機場の令和4年4月供用開始に向け、鋭意、工事を進めているところですが、このような状況を踏まえつつ今後の機場建設に生かし、地元^{どくじや}に喜ばれる施設となるよう、職員一丸となって事業推進して参ります。

＜発信：最上川下流左岸農業水利事業所＞